



京都大学
理学部
現役合格

宮坂 優太

クラス授業受講科目：英語・数学
55段階受講科目：英語・数学・古文・化学

気軽に質問できて、「納得」が得られる。曖昧なところを残さず理解して進められた。

栗山：宮坂君は、中学から中高一貫校に通っていたんですね。学校での成績はどんな感じでした？

宮坂：中1のときから特進クラスという、東大や東工大を目指すクラスだったんですけど、成績はクラスの中で下の方でした。高2のころの成績が、40人中35番くらいで。担任の先生曰く、特進クラスの中間層が早慶のどちらか一方に合格して、下位1/3は特進にいても早慶どっちも受からない、み

たいな。

栗山：四谷学院には高2から通い始めたんですね。何かきっかけがあったのかな？

宮坂：高1のときに一回別の予備校に入ったんですよ。でもそのときは勉強する意欲が低くて、めんどくさくなって1か月ぐらいでやめてしまっただけで、そこからしばらく塾や予備校を敬遠してました。高2になって、やっぱり受験に向けて塾も必要になって思い始めたときに、四谷学院のCMを見て。55段階というのがなんか良さそうかなと思って、説明を聞きに行ったら「ここにしよう」と決めました。

栗山：最初は55段階個別指導の英語を受講したんですね。英語を選んだ理由は？

宮坂：とにかく英語が苦手で基礎からやりたかったというのが一つで、あと英語は早めに始めれば早めに固められるかなと。理科とかは学校の進度がそこまで速くないということもあって。

栗山：実際に55段階を受けてみてどうでしたか？

宮坂：授業が楽しかったんですね。

栗山：それはどういうこと？

宮坂：まず、先生の話がおもしろかった。あと、55段階って最初はめちゃめちゃ簡単じゃないですか。ぼんぼん進めていって全然苦じゃなかったんですよ。入り口がすごく入りやすかった。やっぱり、受かって先に進むと嬉しいし、あと55段階だと気になったことをなんでもかんでもぼんぼん聞いて、「ああなるほどな」という納得が得られる。質問して理解するというサイクルを作りやすかったんで楽しかった。

栗山：55段階でやったことの効果は、どういうところで感じましたか？

宮坂：英語は特に、超基礎的なところからぼろぼろと抜けがあったんで、絶対やっておいて良かったなって思います。あとから追加した他の科目、数学や化学なんかでも、55段階のテキストを愛用していたら、テキストで練習した問題と似たような問題に模試なんかでいくつも出会いました。

現代文の解き方は意識的に学習しないと習得できない。

栗山：高2の3学期に、現代文の講習をとっていますね。

宮坂：高校の先輩から、「入試の現代文はまず解き方を教わった方がいい」と言われてとりました。この授業もおもしろかったです。「ああ、こうやって解くのか」みたいな感じで。

栗山：現代文って、高校にもよると思うけど、学校のカリキュラムが目指していることと入試で要求され

ることって必ずしも一致していなかったりするよね。宮坂：そうですね。高校での授業は、あまり入試って感じはしなかったです。

栗山：設問に対してこういう風にアプローチするんだよ、といったことは意識的に学習しようとしないと情報として入ってこないかもしれないね。

宮坂：それを高2のタイミングで踏まえられたのが良かったです。

先生が学力を把握してくれる双方向的なクラス授業で的確な指導が受けられた。

栗山：高3から英語と数学を選抜クラスで受けることになりましたが、どんな感じでしたか？

宮坂：どちらのクラスも生徒が数名で、仲間として仲良くなれて楽しかったです。英語の先生は一文一文をすごく丁寧に、優しく教えてくれました。授業の中だけでも十分な量の英文読解演習を積むことができたと思います。数学の先生もすごくおもしろい先生で、答案の添削もとても丁寧にやってもらえたので、授業の中で記述力をとことん鍛えられたと思います。

栗山：京大の入試って、英語も数学も結構個性的ですね。英語は和訳2問と英訳1問で、もちろんしっかりとした基礎は築いた上でなんだけれども、例えば京大の和文英訳の場合、日本語の文章を1字1句置き換えるのではなく、与えられた文章を同等の表現で英語で言いやすい内容に置き換えて解いていかなければならない。

宮坂：英語の先生には、僕は理解力というか、うまく日本語を变换する力はあるけど、単語力が足りていないからそこはしっかり身につけていかなければならない、というアドバイスをいただきました。

栗山：先生から宮坂君の学力分析を受けたってことですね。数学も、京大は東大と比較すると数Ⅲの割合が低くて、論証問題や図形問題が出題される割合が高いですが。

宮坂：数学も、やはり「図形が苦手」ということが先生にわかってもらえていたので、重点的に引き上げてもらえました。論証の書き方とかは比較のできていたのですが、解法を見つけ出すための発想法、「こういう問題がきたら、まずこういうことを考えてみよう」みたいなアプローチの仕方をすごく教えてもらえました。

「どうしてこうなるんだろう」と疑問を持つことが大事。 55段階で知的欲求が満たされた。

栗山：化学は高3から55段階を始めたんですね。55段階を選択したのは、知識面での補強がほしい、みたいな感じ？

宮坂：はい。高3の春の時点で知識のなさがひどかったんで、55段階をとって見たんです。そうしたら、僕、なんかちょっと他の人より変な質問をするらしいんですけど(笑)、先生がそういう質問に全部答えてくれてすごく楽しかったです。知的欲求が満たされました。

栗山：ちなみにどんなことを質問したの？

宮坂：そうですね、特に有機でいろんなことを教えてもらったんですが…。あ、浸透圧のことを質問したことを覚えています。浸透圧という現象がイメージしにくくて、「なんですか、これ？」みたいな。

栗山：「浸透圧ってそもそも何なんですか」と。

宮坂：何でそういう現象が起こるか、その仕組みがわからないと気持ち悪いから問題に手をつけたくなくて、先生にいろいろ聞きました。

栗山：それはすごく大事なところですよね。そういう風に「どうしてこうなるんだろう」と思えるということは、それだけの賢さがあるってということだと思うから、やはりそういう疑問に答えてくれる先生じゃないと。何も疑問を抱かずに、単に与えられたものだけをやっていくっていうんじゃ、勉強もおもしろくないしね。

宮坂：おもしろくないです。



焦って過去問対策しても 真の学力は身につかない。

栗山：成績の伸びが感じられたのはいつごろから？

宮坂：伸びてきたと感じられたのは、秋ぐらいからですね。模試の成績もそれまではぱっとしなかった。

栗山：(模試の成績を見ながら)第1回の京大模試、英語18点ですね。

宮坂：18点！そんな点数でしたっけ(笑)。

栗山：それが、本番の入試では150点満点で86点ですからね。約5倍ですよ(笑)。

宮坂：英語の目標得点が6割の90点だったので、まあまあ結果でした。

栗山：東大や京大を目指す現役生は、夏の模試の成績でそんなに心配する必要はないんですよ。何せ一回受験を経験済みの浪人生がわんさかいるわけだから。焦って過去問対策に走るのではなく、まずはペースをしっかりと積み上げていくことの方が大事だし、本当の実力をつけるためにはそれしかないんですよ。

京大が求めるのは、勉強意欲がある生徒。 マニュアル的な対応だけでは合格点はとれない。

栗山：京大に現役で合格できたのは、受験としてま

どういったところが成功のポイントだったと思う？

宮坂：先生と仲良くなれて、自分の疑問を全て先生にぶつけてつぶしていったことが、現役合格をする上ですごく良かったと思います。

栗山：それは55段階もクラスも両方だね。

宮坂：はい。さっきも化学で言ったんですけど、めっちゃ根本的なことを気にするんで、それを質問して、先生が教えてくれて…というのは、僕が勉強する上でとても大切にしていることなんです。

栗山：京大に合格するには、そういうのが必要だと思うんだよね。

宮坂：知的好奇心みたいな。

栗山：そうそう。「受験のために勉強する」というよりは、ちゃんと学問として吸収できる勉強をしようという意欲がないとね。そういう意欲がある生徒を、京大は当然求めているわけであって、テクニックだけで点をとるような生徒が欲しいわけじゃないからね。

宮坂：僕の場合、「京大いいな」って思って、あこがれの京大というのを頭の中に置きつつも、受験勉強で「京大に受かるために」みたいな意識はあまりなかったです。

栗山：うん。まずは「これを自分が知りたい」というのがあって、それを解決するところからやっていったと。

宮坂：理科とか特に、勉強していて楽しかったです。ほんと楽しかった。僕は教科書とか55段階のテキストとかの基礎的な書物を一番大事にしている、教科書をひたすら、自分で説明できるように理解した上で、問題に入っていた。だから、僕はあまり過去問を自習で解く時間はなかったですね。基本的なことを自分で考えて、腑に落ちて理解できた瞬間がなんかすごい気持ちいい。そういうところが一番楽しかった。

栗山：京大的な問題は授業でプラスして、教科書で習うことをしっかりと吸収していったということですね。過去問をやって模範解答見て、「あ、そうか、ふーん」というだけだと、それは成績が伸びるよう

な勉強の仕方じゃないですよね。しかも京大はマニュアル的な対応方法だけで合格点とはれないわけだから。

宮坂：物理とか特にそうで、京大の物理がとても基礎的なことから聞いてくるようなところがありますよね。

栗山：そう、一步一步式をつないでいって、基本的な原理の積み重ねで最後にこうなる、というところまで持っていく感じで。

宮坂：位置エネルギーがmgh、みたいなところから聞いてくるんで、やはり基礎から理解しておいて良かったなと。

栗山：そうだね。「ポテンシャルエネルギーとはなんぞや」というところから理解しておくことが必要で、単に「位置エネルギーだからmghです」というような暗記だけだと、宇宙空間に移ったらすぐ使えなくなっちゃうし、逆にポテンシャルエネルギーという概念がしっかり入っていれば、電磁気学に入っても、すんなり力学と地続きで理解できる。

宮坂：そういうところが基本の良さですね。

栗山：基本から理解するというのが、学問をする上での一番大事な姿勢なんですよね。それはどの教科でもそうです。

宮坂：はい。後輩にも受験云々というより、「理解できた！」という瞬間を楽しみながら勉強してもらいたいです。

